

敦賀ケアセンターかくだ「はるか」(認知症対応型共同生活介護事業所)

1. 評価結果概要表

作成日 19 年 7 月 31 日

【評価実施概要】

事業所番号	1870200159
法人名	株式会社 かくだ
事業所名	敦賀ケアセンターかくだ「はるか」
所在地	敦賀市昭和町二丁目20-16 (電話) 0770-25-4141

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	平成19年6月22日	評価確定日	平成19年7月31日

【情報提供票より】 (19 年 6 月 8 日 事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 4 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	8 人、非常勤 1 人、常勤換算 7.7 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,600 円	その他の経費(月額)	5,400 円	
敷金	有 (円)	Ⓜ		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,050 円	

(4)利用者の概要 (4 月 1 日 現在)

利用者数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0	要介護2	6		
要介護3	2	要介護4	1		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 86.6 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	川上医院(内科・胃腸科・外科)
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

敦賀市郊外の、工場や大型店が近接する地域に位置する法人の本社ビルの2階にこのホームはある。食堂の大きなガラス張りの窓からは、広々とした景色や木々の緑が生い茂る様子が臨め、開放感がある。また、このホームは、県内でもいち早く学習療法を取り入れたことが特長として挙げられる。学習療法では、職員と入居者が1対1で向き合うことにより、職員が入居者を観察する目を養い、会話が増えたりすることで、入居者の介護度が進みにくくなったなどの効果をあげている。また、グループホームの前身が代表者の家族介護の経験から立ち上げられた宅老所であるということから、代表者は職員に対し、常に「自分の親だったらどう思うか」という気持ちで介護に当たるよう指導の徹底がなされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回、前々回の評価で「地域との交流」が課題として指摘されているが、改善にまで結びついていない。代表者と事務長は自分たちの高い理想と強い信念に基づいてケアを実践しており、すばらしいと感じられた。しかし、そのすばらしい理想と信念を大切にしながらも、地域密着型サービスとしてグループホームに求められる役割を担った運営が望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員に自己評価票を提示し、自分なりに取り組むよう話されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	会議の内容が報告と説明のみになりがちとなり、委員の積極的な参加を働きかけることが課題になっている。事業者側の努力のみならず、行政や地域包括支援センターからも運営推進会議の意義や必要性を広報・啓発する働きかけを求める必要もある。事業者側からも運営推進会議委員がホームに対して関心を持ってもらえるよう、普段から報告や相談をすることが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	苦情、相談に対する記録がなされている。普段の小さなトラブルに関しては、家族に直接連絡したり、面会時に話をして解決している。家族会は年2回開かれているが参加者が少ない。家族へ定期的な便りを出すことやこまめに連絡を取ることを通して、家族の意見や希望を聞く機会を増やすことが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域との交流が十分に進んでいるとはいえない。今後、地域行事への参加や必要とされる役割を担っていくことを期待したい。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		理念に基づく運営			
		1 理念の共有			
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭的な雰囲気の中での看護・介護、人命尊重と平等・自立支援、地域社会との連携を理念に掲げ、分かりやすい言葉で表現されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は毎月、運営理念とともに「はるか」の介護目標を振り返り、個人目標、自己評価を提出するなど理念を確認し、実践する取り組みがなされている。		
		2 地域との支えあい			
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元住民との交流は十分とは言えない。知人と会うのを避けたい入居者や家族もいるとのことで、積極的に進められていない。		地域密着型サービスとして積極的に地域との関わりを持つことを期待したい。地域行事の情報を集めて参加するなど、地域と接点をもつ努力が求められる。
		3 理念を実践するための制度の理解と活用			
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員に自己評価票を配付し、取り組ませることで、「ケアの振り返り」がなされている。しかし、全職員の意識の共有や改善への取り組みまでには至っていない。		全員で評価の意義とねらいについて話し合い、改善計画を立てるなど、評価を有効に活用することを期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の内容が報告と説明のみになりがちとなり、委員の積極的な参加を働きかけることが課題になっている。地域包括支援センターに対しても運営推進会議の活性化のための相談を行っている。		普段から、委員に情報を提供したり、ホームに来てもらったり、あるいは地域の団体と交流するなど、ホームに対する理解を深め、関心を持ってもらう取り組みが望まれる。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員の訪問はあるが、市担当者との情報の共有や協働関係は形成されていない。		地域での認知症ケアを担う事業所としての情報発信や地域密着型サービスとして期待される役割や課題等を共有するためにも市担当課との積極的な関わりが望まれる。
		4 理念を実践するための体制			
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等への定期的な報告はなされていないが、金銭出納の状況や健康状態の変化は必要に応じて報告されている。		普段の暮らしぶりや行事案内などについて、定期的かつきめ細かい報告が望まれる。家族との接点を多く持つことで、入居者に関する情報を得たり、家族からの要望を聞く機会を増やしていくことを期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会や家族の訪問時に積極的に苦情や相談を受け止めている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員は3か月間は日勤のみとし、その後、2～3か月は経験のある職員とともに夜勤をすることとしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医が元からのかかりつけ医である入居者が多い。通院介助ができる家族には協力を得ている。家族と職員、どちらが介助しても通院ノートへ医師からの伝達事項を記入してもらい、情報を共有化している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向を尊重する方針がある。法人が運営する別のグループホームにおいて、入居者を看取ったこともある。		
		その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重		
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の衣服の乱れに対する職員の声かけが大きい場面が見られた。また、入居者に対して、友達のような職員の話しぶりが聞かれた。		職員の話しぶりや声のトーンも入居者に合わせるなど、一人ひとりの意向を感じ取りながら、年長者として入居者を尊重した接し方が望まれる。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的な雰囲気大切にしており、一人ひとりのペースを大事にしている努力が見られる。		時として職員のペースに合わせた支援となっていないか、職員全体による振り返りとさらなる取り組みの工夫を期待したい。
		(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備はホームで行っており、入居者ができることは役割として担ってもらっている。しかし、職員は入居者と一緒に食事をとっておらず、食事時間をずらして個々の弁当を食べている。		職員と一緒に同じものを食べることで入居者も安心して食事ができ、職員も実際に食べながら入居者の様子を観察することで、好みの味付けや形、硬さを把握しやすいという利点がある。介助する一方にならず、同じテーブルで同じ物を楽しんで食べられるよう見直しを期待したい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間帯は決められている。入浴を拒否する入居者に対しては、時間をにおいて別の職員が勧めるなどの対応をしている。		一人ひとりの習慣や希望に合わせて、入浴したい日、したい時間に対応できるような取り組みを期待したい。
		(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	くもんの学習療法を県内でもいち早く取り入れている。食事の準備ができる人には手伝ってもらうなど、できることを役割として担ってもらっている。		さらに、入居者に楽しみごとや役割の場面が増えるよう職員の働きかけも望まれる。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は近くを散歩するなどの外出支援がなされている。本人や家族の希望に合わせて、なじみの理髪店に来てもらったり、近所の美容院へ出かけたりしている。		日常的に、馴染みの場所や、本人の希望に合わせた外出の支援ができるようになることも期待したい。
		(4)安心と安全を支える支援			
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームが建物の2階にあり、1階や屋外への出入りは施錠によって制限されている。		入居者一人ひとりの外出のせや傾向をつかんだり、見守りの方法を工夫することで、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援していく取り組みを期待したい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器は備えられているが、訓練等は行われていない。		万が一に備えて、消防署と連携し、定期的な避難訓練の実施と設備点検が望まれる。また、職員だけの対応には限界があるため、近隣住民への協力を要請することも期待したい。
		(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援			
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録し、特に水分が不足しないよう心がけられている。		
		2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の大きなガラス張りの窓からは、広々とした景色や木々の緑が生い茂る様子が臨め、開放感がある。入居者の写真などが壁に貼られており、親しみの持てる空間づくりへの配慮がみられる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものが持ち込まれてはいるものの全体的に少ない。しかし、本人の若い頃の写真、本人や家族の作品などが飾られており、職員の愛情と工夫が感じられる。		

■は、重点項目。

自己評価票

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1 理念の共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域社会との連携をモットーに積極的な活動の参加に努める」ことを運営理念にあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に一度の全体ミーティング及び月に一度のグループホームミーティングの唱和で周知している		積極的なミーティングへの参加とミーティングでの活発な意見交換をよりよくしたい
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営理念を玄関の見やすい場所に掲示し、来訪者・家族・職員が常に目につくようにしている		
2 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩に行った時、通りかかる方への挨拶は行っているが近隣の方に立ち寄ってもらえる状況にはない		散歩を積極低に行い顔見知りの関係を築く事から始めていき、よりよい交流に努めたい
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域において開催される「ふれあいサロン」に積極的に参加している。地域の老人会に入会している。		地区の祭りなどへの参加にも取り組んでいきたい
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者への働きかけは行っていない		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は介護目標・個人目標をたて、毎月自己評価を行い、管理者へ報告している		常に心に余裕を持ち、自己評価が生かされるように努める
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ふれあいサロンへの参加及び地域の福祉委員を巻き込んだ運営推進会議を開催している。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	敦賀市の介護相談員の訪問などを行い、介護相談員からの提言を積極的に活用している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護の制度については、ミーティング等において研修を実施している		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	思いやりを持ち介護に当たっている。介護職員間の連携を大切に虐待防止に努めている		これからも虐待防止に努めながら学習にも取り組み、虐待が見過ごされる事がないように努める
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容の説明は行っている。その際に疑問点があれば、その都度説明を行って納得してもらっている		今後も利用者、家族等の不安、疑問点を尋ね理解納得を図っていきたい
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会としては設けていないが、職員には話して頂ける努力をしている		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	個々の家族の状況に合わせて、話をさせて頂いたり健康状態に変化のあった時はその都度伝えている		暮らしぶりに関しては家族が来所された時に積極的に伝えていきたい
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	半年に1回家族会を開催して意見交換を行なっている。		家族会への多くの参加への声かけ、活発な意見交換に努めたい
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回開催するミーティングにおいて職員の意見を積極的に発言出来る機会を設けている		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の確保、調整は出来ている		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の配置については、極力長期間となるように努力しているが、退職等やむを得ない場合もあり、その際は早めに他の職員をダブル配置するなど、利用者への影響を与えないように配慮している		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアマネジャー・介護福祉士などの資格取得については、順次受験するよう指導しており、また、試験前には勉強会を開催するなど支援している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業他社との交流はないが、当社の他のグループホームとの職員・利用者の交流は積極的に行なっている		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	役員と職員の個人面談を定期的実施し、悩みなど相談に応じている		ストレス軽減に向けての工夫は今後も続けていきたい
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者及び職員に個人目標・実績評価を毎月記入してもらい、役員がその内容を把握することにより、個々の仕事を認め、より向上するようアドバイスしている		向上心を常に持ち個々においても学習し経験を積みレベルアップに努めていきたい
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	なじみの関係作りの為、傾聴共感の姿勢を忘れずゆっくりと向き合っている		個々が上手くいくように対応の上手い職員を手本に自分なりの対応を学んでいきたい
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	半年に1回家族会を実施している。家族の来訪時に話す時間を設けている		情報を提供出来る努力をしていきたい
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	なじみの関係のある人、家族の対応から学び取り必要とする事を見極めている		日々、観察しながらもっと良い関係が築けるよう努力したい
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の見学も受け入れている		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活を共にしながら職員も利用者から学ばせて頂いている		支え合う関係作りの為、利用者をもっと観察し努力していきたい

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人に対する家族の思いと会話の中から得ている		行き違いの起こりやすい問題でもあるので少しでも良い方向に向かう様努力して行きたい
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が来られた時の時間を大切にしている		個室での家族と過ごす時間への対応にも心がけて行きたい
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場との関係を継続している人は少ない		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日中は出来るだけホールで過ごし、利用者同士の関係が保たれるようにしている		その場、その時での対応が出来るよう、コミュニケーション技術の向上にも努めたい
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	特に行っていない		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		1 一人ひとりの把握		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位に検討しているつもりだが、希望意向が把握出来ていない事が多い		少しでも本人の思い、意向に近づく努力を重ね、その人らしい暮らしが出来るよう努力して行きたい
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集は常に行っているつもりだが、まだまだ不足している		会話の中、行動、日々の観察、家族からの情報を少しでも多く得られるよう心がけたい
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活の中でちょっとした変化に気付く事が出来るようにしている		観察をし、職員の複数の目で見て判断出来るようにしたい
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行い、介護計画を立てている		他職種やより多くの意見を取り入れ、より質の高い介護にして行きたい

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	カンファレンスは利用者の状況変化や時間に応じ行い、評価を行い計画を作成している		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録ファイルにより日々の様子を記入し介護計画を見当している		他者の記入、記録を見て学び考える時間も作りたい
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	会社が多方面の介護サービスを行っているので、意見交換が出来介護の参考になっている		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	特に行っていない		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ふれあいサロンの活用を行っている		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター - 職員との話し合いは頻繁に行なっている		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的にかかりつけ医に受診している		体調変化を見逃さず感じとり医師との連携を大切にして利用者の健康は守って行きたい
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	医師との相談は積極的に実施している		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同一施設内に看護師が常駐しており、看護師からのアドバイス、指示が常にあり健康管理に活用している		助言を生かし健康管理に努めたい
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院との対応については、看護師が行なっている。		

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>家族の意見を大切にしたい</p>		<p>しっかりと家族、利用者と向き合い、後悔の少ないよう取り組んでいきたい</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>意見、検討は行っているが、今後の変化に備えたものではない</p>		<p>考えなければならない事に関わる全員が理解し介護にあたるようにして行きたい</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>住み替えの情報交換を行っていない</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>		<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーの確保は徹底している</p>		<p>個人の尊重へは日々努力して行きたい</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>説明より納得をモットーに努力している</p>		<p>今後も本人本位の生活への支援を考えて行きたい</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員のペースに合わせる事がある</p>		<p>一人一人のペースを大切に少しでも希望に添えるよう努めたい</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>馴染みの理髪店に来て貰っている。また、近所の美容院へ出かける人もいる</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食べたい物を聞き、メニューに生かしている</p>		<p>出来る事、出来ない事を考えながら共に楽しめるよう努力したい</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>コーヒーのみ</p>		<p>疾患も考えながら好みを取り入れたい</p>

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の習慣を把握しその人のパターンで援助が出来るよう心がけている		排泄パターンの観察を行い、記録を確実にして行きたい
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・水・金曜日を入浴日としている		拒否に対して個別の対応を行っている
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	横で添い寝をしたり安心して眠ってもらう。眠れない時は話をして付き添っている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個別的な援助はくもん学習が中心で他の事にも取り組む必要がある		個別援助を利用者の観察を通し職員全員で探して行きたい
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実施していない		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は声かけし散歩に出かけている		希望に合わせて買い物へも出かけて行きたい
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じ花見、栗拾い等全員での外出を行っている		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行っていない		可能な方への援助は行いたい(ハガキからでもよいので)
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも受け入れ、本人が強く希望する時はこちらから連絡を取って来て頂いている		気軽に来て頂ける環境作りを心がけたい

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを心がけている		身体拘束への学習機会を持ちたい
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2階にあるため、危険防止の為、通用口はオ-トロックにしている		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	転倒などの危険防止には充分心がけているが事故が起こる事がある		大きな危険を回避する努力をしたい
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物等は目にふれない所に保管している		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員の連携を大切にしている		学ぶ機会を持ち事故防止に努めたい
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	人工呼吸とAEDの講習を実施した		一番大切なので学習し、技術として身につくまで行いたい
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	行っていない		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	型としては出来ていない		家族との話し合いを重ね少しでも本人の希望、家族の希望に近づく事を願いたい
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変化に気付いた時はバイタルサインを測定し看護師に報告し指示をもらっている		カンファレンスを行う事で話し合いを行い、速やかな対応につなげて行きたい
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認を行い変更は連絡ノートを用い連絡して注意点を明らかにしている		薬の作用、副作用を知る事も大切なのでそれについての学習もして行きたい

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ヨーグルトの摂取(毎日)、水分摂取量のチェックを行っている		日中の活動量の増加に努めたい
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	歯科衛生士により口腔ケアを実施している		歯科衛生士との連携をとって指導を受け、職員が全員口腔ケアが出来るようにしたい
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事を心がけなるべく自分で食べる事を大切にしている		水分摂取量の不足がない様、日々確認している。不足の際は補充出来ている
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食前の手洗いの施行。予防注射を受けている		職員の手洗い、消毒にも注意して行きたい
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ほぼ冷蔵庫で管理		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を飾っている		
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔にも注意して、季節の飾りを行っている		
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	ほぼホールでの席が決まっている		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に写真等飾ったり工夫はされているが、本人の馴染みの物が少ない		家族への協力をお願いし、居心地の良い場所にして行きたい
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気のおよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気はよく行っている		温風ヒーター等で乾燥するので湿度に気を配りたい

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設備面については、安全面及び自立した生活が送れるように配慮した作りにした		安全に関する各設備の点検を実施する
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員が手を出し過ぎる所があるので残存機能の維持に努めたい		出来る事、出来ない事への再確認
87	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関への花を植えたプランタを設置し、華やかな雰囲気作りをしている		
項目番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)		
サービスの成果に関する項目				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・認知症の進行を少しでも遅らせるため、くもん学習療法と取り入れ、実践している。